

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2018年10月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第598号

セクハラやパワハラ、忖度という言葉がマスコミを賑わせている昨今、二人の方から宿題をいただきました。一つは男女共同参画社会の専門家からで、「なぜ、日本では女性に対する差別が問題にならず、そもそも基本的人権への関心がこれほど薄いのか」。もう一つは教会の役員から、「既存の教会員と新受洗者の間で、あたかも親分・子分のような関係にならないためにはどうしたらよいのか」。

この二つの問い掛けは、閉塞感を感じている私たちの社会が内包してきた問題を、見事に言い当てているのかもしれない。ではないにせよ、「先輩・後輩」「若者・年寄り」「障がい者・健常者」など、ともすれば強者が都合よく使い分けられる二項対立の関係は、社会の至るところで見ることができるところです。丸山眞男の「抑圧の移譲」を持ち出すまでもなく、何気ない不平等、対等ではない関わりは、特に意識はしていなくても(いないからこそ)、共同体の分断を生みやすく、閉鎖的な構造の中で、差別の温床となるのだと。

しかし、それだけが真の理由でしょうか。

現在の日本では、家族以外のネットワークやコミュニティ、ボランティアや地域活動への参加などといった、社会や地域における人々の信頼関係や結びつきを表す「ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)」が先進国の中で最低です。岡本純子著『世界一

孤独な日本のオジサン』によれば、「地縁」「血縁」という昔からのセーフティネットが都市化や核家族化などで消滅しつつある中、それに代わる「コミュニティ」が欠落してしまふことで、孤独に日々を過ごす老人が多くなっているという状況だそうです。

同書によると、イギリスの

孤独社会に福音を



関東運営委員

進藤 重光

ら、「ソーシャル・キャピタル」だけが顕著に低い国なのです。孤独感己の健康を害すだけでなく、ついには社会に対しての不満を募らせ、「キレやすい老人」を生み出す基盤にもなるようです。また、孤独を感じるのは若者も同様で、国連児童基金(ユニセフ)の二〇〇七年の調査では二四カ国中のトップで、一五歳の子どもの実に三分の一が自分は孤独だと感じていると

いう結果が出ているそうです。それは個人主義の行き着く先であり、現代的な病理の結末ということなのかもしれません。フランススコ教皇は次のように述べます。「個人主義は、人間存在を分裂させ、自己の福利を求めることで互いを敵対させます。……世界のすべてのキリスト教共同体に対し、特別にお願いしたいと思えます。魅力と光を放つ、兄弟としての交わりのあかしとなってください。互いに世話をし合い、互いに励まし合い、同伴する者として、すべての人がたたえられますように」(『使徒的勧告 福音の喜び』99)。

仲間外れにしたり、されたりするのではない「神の場」の必要性。そして、キリスト者が常に行っている神を賛美する行為を、神の似姿である人の存在そのものにまで広げていくことを考えたいと思えます。いまこそ、「デイスル」のではなく、ほめ合い、他者を尊重し認め合う日常の再構築と「はなしあい」の重要性を再認識すべき時代が来ているのではないのでしょうか。

(公益財団法人東京YMCA監事)

関東活動センター

●2018年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅰ
「日本キリスト教史を読む」Ⅱ
(大正篇 全7回)

講師：日本基督教団千代田教会牧師 戒能 信生さん
2018年5月10日(木)～12月13日(木)
会場 早稲田奉仕園セミナーハウス

「日本キリスト教史を読む」
講座を受講して

足立 素夫

私は日本基督教団の浦安教会の教会員です、といつても受洗は2014年のイースターですのでまだまだ新入り



です。私は両親が大森教会の教会員であったり、自身もミッシヨンの学校を出ていながら、それまで全く教会とは無縁な生活を送っていました。たまたま妻が浦安教会の教会員だったことから、退職後一緒に教会に行くようになり、教会のお仕事を手伝うようになっていました。ある時突然「神様の存在を信じられろ」という思いが降つて来ました。その時の浦安教会の上原牧師からは「信仰は受洗してから始まります」と言われ、キリスト教のことがよくわからないうまま、受洗を決意しました。

講座があることをお聞きし、第1世代は新島襄に始まり植村正久・内村鑑三・新渡戸稲造までのお話が聞けることがわかりました。実は私は退職後、先祖をたどることを思い立ち、その中で祖父が札幌農学校の2期生で内村鑑三・新渡戸稲造と同期で一緒に札幌独立教会を立ち上げたことを知りました。そして母方の祖母の従弟が大森教会の佐波直牧師で奥様は植村正久の長女であることがわかりました。そんな時に戒能先生の講座のお話を聞いたことで、講座を受講し、「その時代」の中でそれぞれの人の生い立ち、生活、思想が解き明かされていく講座をとて面白く聞かせていただきました。本年、第2世代に移つてくると、私の知らない人達がどんどん登場してきますが、その方たちの人生・主張についても、戒能先生は実に明快に詳細に分析・解説していただけます。

この講座は来年の第3世代まで続けていただけるとのことです。期待に胸を膨らませていきます。学生時代あまり勉強をしなかった私にとっては、人生はじめての勉強のように思われ、講座・授業がこんなに面白いのであれば、若いころもっと勉強すればよかったと思う今日この頃です。

日本クリスチャン・アカデミー連続講座が熱い！

河原田 美哉子

2017年6月から始まった戒能信生先生の連続講座は、熱気のなかで回を重ね、この9月で12回を迎えます。

昨年の第1期は「幕末期宣教師の来日と日本の教会の出發」から始まり、新島襄、海老名弾正、植村正久、内村鑑三、新渡戸稲造、柏木義円の生涯を辿りました。戒能先生が毎回、充実した資料を用意してくださり、各人がどういう生涯を送り、どのような信仰を貫いたのかといった人物像が生き生きと語られました。お話にすつかり聞き入り2時間があつという間に過ぎています。

また、昨年11月には講座からスピノフした「明治期に創立された教会を訪ねる」ツアーとして、富士見町教会、本郷中央教会、弓町本郷教会を訪問する機会が与えられま

した。富士見町教会の会堂は新しく建てられました。ヘレン・ケラー女史が来日したときにスピーチした講壇を見せていただき、感無量でした。弓町本郷教会の重厚な黒光りを放つレトロな会堂で、海老名弾正についてのお話を伺ったのも貴重な体験でした。今年の5月からは大正期に移り、さらに時代が進んでいきます。この連続講座をおして、日本のキリスト教創成期の伝道はかくも熱いものだったのかと改めて感服しました。しかし、それぞれの人物の妻たちがどのようにその伝道生活を支えたのかも知りたところ。歴史の表舞台には大抵男性しか登場しませんから、資料もきつと少ないのでしよう。その切り口から日本のキリスト教の歩みを振り返ってみたら、また違った姿が見えてくるかもしれません。歴史には残らない大変な苦勞が埋もれているはず。来年は第Ⅲ期の昭和期に入ります。戒能先生と、参加者の皆さまと共に最後まで連続講座を完走したいと願っております。

関西セミナーハウス活動センター

●2018年度「開発教育セミナー」第2回
「ビジネスで持続可能な社会をつくる」
「タオルから織りなす豊かな社会」

株式会社 KEUCHI ORGANIC 代表 池内 計司さん
HAKKA 木綿庵代表 梅田 正之さん
2018年7月14日(土)〜15日(日)



セミナーの前に、オプション企画として、綿織り、綿打ち、糸紡ぎなどを梅田さんを実施していただいた。綿花から綿織物ができるまでの過程の一部を体験的に知ることができたのは貴重な機会だった。



第1セッションでは、綿花にまつわる歴史などを概観した。大航海時代を経て綿織物の魅力を知った欧州の国々が植民地で綿花を作らせ、中でもアメリカの綿花栽培は奴隷制度によって支えられていた。現代における奴隷の代わりは何か。刈り取り時に使用する枯葉剤の存在など、安全の裏側には理由がある事を改めて認識させられた。さらに、日本の繊維産業や今治タオルの歩みとともに、ブランドロゴで十把一絡にしてしまうことの功罪を知った。

第2セッションでは、イケウチオーガニックが「風で織るタオル」を発表して以来、安心・安全にこだわる信念を貫きながら、日々進化していることを学んだ。どの工

程でも人にも環境にも配慮した取り組みが見られるが、特に原料の生産地タンザニアではリーメイ社によって持続可能な生産ができるシステムが整えられていることが印象に残った。

第3セッションでは、巷にあふれる「オーガニックコットン」について考えた。オーガニックな綿花のことばかりが語られているが、紡績や縫製などの生産工程について、私たちが知りたい情報はなく、消費者が情報開示を求めるとの必要性を感じた。最後には、安価になった衣服、大量の衣服が廃棄されている現実に向き合いながら、私たち自身が「つかう責任」を十分に果たしているのかどうか深く考えさせられた。

●2018年度 修学院フォーラム「いのち」第2回
「ゲノム編集とデザイナー・ベビー」
「ヒトの遺伝子操作が現実には」

基礎生物学研究所クローマ 中山 潤一さん
チン制御研究部門教授 2018年9月8日(土)



2012年に、クリスパーキャス9と呼ばれるゲノム編集技術を用いれば、生物の遺伝子の任意の位置を極めて容易に切断することができると発表された。この技術はすでに筋肉量の多いマダイや、収量の多いイネの開発に用い

られようとしている。この技術を用いて授精卵に使うと、遺伝性疾患にかからない子どもや、知的能力や、身体的能力に秀でた子どもを得ることが出来ると考えられるので、その試みが広がりつつある。この技術の現状と問題点を、新進気鋭の生物学者の中山潤一さんに語って頂いた。中山さんは、2017年に発行されたポール・ノフラー著「GMO sapience」(丸善出版)の翻訳者である。

中山さんによれば、この技術を用いて遺伝子操作を行うのに必要なDNAや酵素はインターネットで入手可能である。分子生物学的実験ができる施設であれば、受精卵を入手しさえすれば、それにこのゲノム編集技術を用いて遺伝子操作を行うことが出来る。その受精卵を代理母の胎内で育てれば、遺伝子操作を施した子どもを得ることが出来る。

ただし今のところ、狙った遺伝子に意図と異なる改変を行ってしまったり、狙ったのと異なる遺伝子を改変してしまったり、予測と全く異なる遺伝子操作を行ってしまう場合もある。しかもその間違いは、子どもが胎内である程度大きく育つてからしかわからない。そもそも子どもの遺伝子操作は、健康を向上させ、人間性を向上させるのに役立つと主張されるが、親には子どものゲノムを編集する権利があるのか、優れているとは何を意味するのか、特定の性格や能力は生きるに値いし、他は生きるに値しないと誰が決めることができるのか、などが大きな問題である。

にもかかわらず、この技術は世界各地で進みつつある。(次ページに続く)

プログラム案内

◆関東活動センター

■2018年度関東フォーラム 宗教対話V

礼拝の話し方ワークショップ
「礼拝の言葉を豊かに」(全6回)

講師：友野富美子さん(経堂緑岡教会副牧師、元声優)

日時：③11月6日、④12月4日火曜
15:00~17:00

会場：日本基督教団葉鴨ときわ教会
参加費：1回 1,200円

■2018年度聖書を読む講座I

新しい聖書の学び「マルコ福音書をジックリと読む」(第1期)(全10回)

講師：山口 里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑦11月13日、⑧12月11日
火曜18:30~20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホール222号室

参加費：1,200円/学生500円
共催：早稲田奉仕園

■2018年度関東フォーラム 宗教対話I

「日本キリスト教史を読む」II
(大正篇全7回)

講師：戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第6回「植村環 女性牧師としての生涯と信仰」

日時：11月8日(木)14:00~16:00

東 西 南 北

◎関西セミナーハウス

宇佐美悦子、客室(囑託)、8月31日付退職。長年のお働きに感謝いたします。

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本キリスト教団・アカデミー 代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館1F
TEL 03-3207-6198

E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail:office@academy-kansai.org

遺伝子操作された子どもの遺傳的特質は、次の世代にまで引き継がれ、次第に大勢を占めていく。
この発題を巡って、様々な立場の参加者から、遺伝子操作によって画一化されない生き方への期待が述べられた。しかし、遺伝子操作を求める動機には、少しでも他人より優位に立ちたいという願望がある。人がこの願望から自由にならない限り、遺伝子操作への期待は終わることが無い。中山さんがその講演を次の言葉をもって終わられたのは、印象的であった。
「私たちの人生の豊かさは、私たちの不完全さによってもたらされる」
今後議論を深めていきたい課題である。

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス101号室

参加費：1回500円

■柏木義円公開講演会

「柏木義円の眼で見る今日の日本」

講師：山口陽一さん(東京基督教大学学長)

日時：11月17日(土)14:00

会場：日本キリスト教会館1階16号室

参加費：1000円(学生500円)

共催：柏木義円研究会

◆関西セミナーハウス

■月釜 清心会

日時：11月11日、12月9日

日曜 9:00~15:00 受付

於：関西セミナーハウス

年会費：4,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催

■2018年度もみじまつり

茶席3席、邦楽席(箏演奏)

展示「アジアで描かれた聖書の世界」
フルートとピアノによるコンサート

日時：2018年11月23日(金・祝)
9:00~16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：前売 3,500円、当日 4,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2018年度お茶のこころと宗教のこころ

「聖書をいっしょに読みましょう」

座長：榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

教団牧師)

日時：⑦11月1日、⑧12月6日

木曜13:30~16:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：1回1,500円 学生500円

■2018年度修学院フォーラム「いのち」

第1回「老いの日をいかに生き、支えるか-2」

「往きの医療vs 還りの医療-わたしたちはどんな死に方をしたいのか?」

講師：島田 宗洋さん(救世軍清瀬病院名誉院長)

日時：11月10日(土)13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：2,300円、学生1,000円

■2018年度開発教育セミナー

第5回「今、外国人研修生は~私たちの社会と人権」

講師：早崎 直美さん(RINK すべて外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク事務局長)

日時：11月13日(土) 16:00~14日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円+京都市宿泊税

■2018年度修学院フォーラム「社会」

第5回「武器で日本を守れるか?」

講師：岩佐 英夫さん(弁護士)

日時：12月8日(土)13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス

賛助会費・寄付金報告

2018年8月1日~8月31日(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

賛助会費

横野 朝彦 10,000
古賀 博 5,000
西浦 昭英 2,000
森野 善右衛門 3,000

寄付金

高德 芳忠 5,000
横山 波子 3,000

◆関西セミナーハウス

寄付金

武藤 高司 10,000
株式会社ビーテック 30,000

大原 松雄

10,000

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費

桜井 希 5,000
関西青年アシュラム 10,000
八杉 恵 5,000
奈倉 道隆 3,000
關岡 一成 5,000
都木 かおり 3,000

寄付金

阿部 志郎 2,000
藤田 恭子 5,000
村上 みか 20,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。